木村繁まつり

木村繁追悼企画

祀り、奉り、祭る 四日間!!

この度、東海の演出家のお仲間の呼びかけに愛知人形劇センターが呼応され、この春に木村繁追悼企画を行う運びとなりました。

演劇、人形劇、オブジェクトパフォーマンス、伝統人形劇、先駆的なコラボレーションなど多様な表現活動を続けてきた木村は、生前「人間と人形の関係を見つめる仕事が残っている、これだけは見極めたい。」と語っていました。
この4日間が『木村繁まつり』の様相を呈しつつ、懐かしく又新たな発見のあるひとときになることを願っております。

木村繁追悼企画製作委員会 福永朝子

3/12(木) 19:00～ 日本演出者協会東海ブロック

とてとてぱっぱらぱ & 花まつりのてんぐ

日本演出者協会・東海ブロックの牽引者として、そして本部理事としても活動し、多大なる影響を与えた木村繁氏は人形劇だけではなく人間劇も手掛けています。『とてとてぱっぱらぱ』は1990年に戯曲化したものの、上演されたかは不明。原発を作ろうとした村に先発隊として入った男の一人芝居を朗読で上演します。『花まつりのてんぐ』は1987年初稿、人形劇団むすび座にて上演。今回は人間劇として上演します。

とてとてぱっぱらぱ

演出・出演：岡田一彦

俳優・演出家、劇団 劇座所属。1987年、名古屋劇塾本科（2期生）卒業。劇座研究生を経て現在団員。劇座本公演やスタジオ公演の他外部の劇団にも客演をするなど多数の作品に出演する。また現在は役者だけではなく演出も手掛ける。日本演出者協会会員

花まつりのてんぐ　演出：ほりみか

3歳より奥田敏子にモダンダンス、その後バレエ、JAZZ、バリ舞踊などを習得。演劇はふじたあさや、鈴木完一郎に師事。総合劇集団小劇場を退団後、各地の市民ミュージカルやイベントステージの演出振付、劇団・プロダクションの制作をする。子供達の育成、指導にも力を入れている。元NHK放送劇団ディレクター、MC カンパニー主宰。「あらしのよる劇」「総合劇集団小劇場」は全国巡演中。

出演：長縄雅至子、長見英司、菊正、今村しんすけ、なかむらまりあ、小川真奈、上野裕、堀田真央

音楽：櫻田克子、坂野嘉彦

3/13(金) 19:00～ 日本演出者協会東海ブロック

空sora 音oto & 演出者協会アフタートーク

1999年に結成された、モノを使用した表現集団「OPT（オブジェクトパフォーマンスシアター）」の作品から、2006年に上演されたvol.12『空sora音oto』を上演。終演後は木村繁氏とも縁が深い演出家たちが集い、「アフタートーク」を行います！

空sora 音oto　演出：ニノキノコスター

演出家・創作家。オレンヂスタ所属。日本創作家協会東海支部事務局長、愛知淑徳大学ダイバーシティ表現演習講師など。「MANGAMAN」にて「P朝人賞2017」大賞・観客賞受賞。『ケトくんのこと』にて日本演出者協会「若手演出家コンクール2022」最優秀賞受賞。総合劇集団小劇場　ミュージカル「ルドルフとイッパイアッテテ」演出にて「第2回 虹の会 演劇大賞」受賞。

出演：伊藤文乃、姫井ヤリナ、咲洲浅利、内田もえ、今枝弦、古家暖華、大崎勇人

脚本：長田真紀　／　音楽：坂野嘉彦

人形操演指導：ゆみだてさとこ　／　演出助手：上方智哉

アフタートーク出演：ふじたあさや

1934年生まれの劇作家、演出家。早大在学中に福田善之と富士山麓を合作。放送作家を経て、劇団民、文化座、青年劇場等に作品を提供。河原ひろし、中西司久らと一人芝居を作る傍ら、児童劇、ミュージカル分野でも活躍。元日本演出者協会会長、元昭和音楽大学教授。アシテジインターナショナル名誉会員。現在は川崎市民劇団わか町の芸術監督。木村繁とは実践時代に教授えるなどで、演出助手を勤めてもらって以来の付き合いで、名古屋でも二作品共同作業をしている。

アフタートーク出演：はせひろいち

劇作家、演出家、劇団ジャブジャブサーキット代表。岐阜大学卒業後、教師社勤務を経て演劇傾に。書き下ろし戯曲は110本を超す。観客との想像力共有論、絵解き会話研究、「的エンターテイメントが身上。松源・老尾記念演劇賞、名古屋市芸術奨励賞など受賞多数。過去3回岸田戯曲賞の最終候補に残る。現在、日本演出者協会編、日本創作家協会編、岐阜大、静岡文化芸術大、名古屋芸術大で講師、劇団員の育成を長久手市で24年、岐阜市で18年継続中。

3/12(木)～15(日) 製作委員会 展示「木村繁の軌跡」

期間中、ひまわりホールロビーにて木村繁の演出作品の写真等の展示を行います。

展示写真提供：福永朝子

3/14(土) 15:00～ 愛知人形劇センター 小町曼荼羅

2017年ひまわりホール30周年のプレ企画として初演した、木村繁晩年の代表作を再演します。
白布で顔を隠し人目を避けて歩く市女笠の女。地獄極楽曼荼羅の中にひっそりと佇む白衣の女。それが小野小町と知ったのはいつかもだったでしょうか。聖と穢れの境界を自ら汚れ傷つきながら歩いて行った伝説の女性を三味線弾き語りと人形芝居で描きます。

三味線弾き語り：常磐津綱鵬

女流常磐津奏者。2000年常磐津綱男氏に常磐津を師事。2006年常磐津節17代目家元常磐津文字太夫より常磐津綱鵬の名を約され、女流常磐津奏者の道を歩む。2023年芸術奨励賞受賞。プッペンテロル演舞連作詞・作曲担当。正統派の常磐津演奏や日本舞踊の枠を超えて、誰でも楽しめる語りを交えた演奏やマイムや人形との共演に意欲的に活動している。

人形遣い：桑原博之、中島由紀子、古家暖華、LONTO

浄瑠璃台本・演出：木村繁／人形・舞台美術：福永朝子

振付：工藤隆道　／　舞台監督：Chang

プロデューサー：中嶋彦／プロデューサー補：ゆみだてさとこ

17:30～ 製作委員会 観客参加型座談会「偲び夜、彼は曲者」

縁深い人々が集まり、お客様も交えてゆるりとお話する会。それが「座談会『偲び夜、彼は曲者』」です。木村繁と縁のある方はどなたさまもお気軽にお越しください。彼とのエピソードを一つ持ち寄ってお話ししましょう。会場準備中にはロビーと客席にて「OPT」のダイジェスト映像をお流しします。

オブジェクトパフォーマンスシアター（OPT）

高橋輝雄1990年～2016年、愛知人形劇センターが開講したオブジェクトパフォーマンスカレッジの卒業生を中心に結成し、演出の木村繁、美術監督の福永朝子と共に過去23回の定期公演で戯曲作を作り続けた。メンバーは人形劇、美術、ダンス、俳優、マイムなど多岐に渡り「オブジェは人間の従属物ではなく人間と対等である」を理念とし、オブジェと人間の関係性を追求することによって観るものの想像力をかき立てる"動く現代美術"と評されるジャンルを築いてきた。

司会進行：福永朝子

3/15(日) 14:00～ もくもく座 甚目寺説教源氏節

1988年世界人形劇フェスティバルをきっかけに「もくもく座」は誕生、故木村繁の指導のもと甚目寺説教源氏節の再創造を続けてきました。幕末から明治、大正と一世を風靡した大衆芸能を現代に蘇らせる稀有な存在です。小さな人形に健気な心情が宿る瞬間をお見逃しなく。

上演演目　操り三番叟
芦屋道満大内鑑　久寿の葉　子別れの段
久寿の葉　信田の森　子別れの段

出演：安島 緑、梅本きみ子、江口美和、北御門広子、木村貴子、近藤雅弘、田中陽子、中村恵里子、長谷貴代

演出：木村繁　／　人形美術：おばらしげる　／　振付：工藤隆道　／　舞台美術：安島 緑　／　指導：福永朝子

主催：木村繁追悼企画製作委員会　構成団体・個人（順不同）：一般社団法人 日本演出者協会東海ブロック、特定非営利活動法人愛知人形劇センター、パティオ池袋田（知立市文化会館）、総合劇集団小劇場館、人形劇団むすび座、福永朝子、森田、人形劇館

【STAFF】舞台監督：金子康雄／照明：花柳厚美／音響：[illegible]

「木村繁まつり」特設サイト https://aichipuppet.wixsite.com/kimura_matsuri

▶日本演出者協会東海ブロック https://ehsyutsuyatokai201.wixsite.com/tokai　▶愛知人形劇センター https://aichi-puppet.net/